

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 5 月 30 日 10:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,600～39,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 36,500～42,800 ドル
(S&P500) 4600～6050

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 17,600～22,000
(ナスダック総合) 15,700～19,900

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～145.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

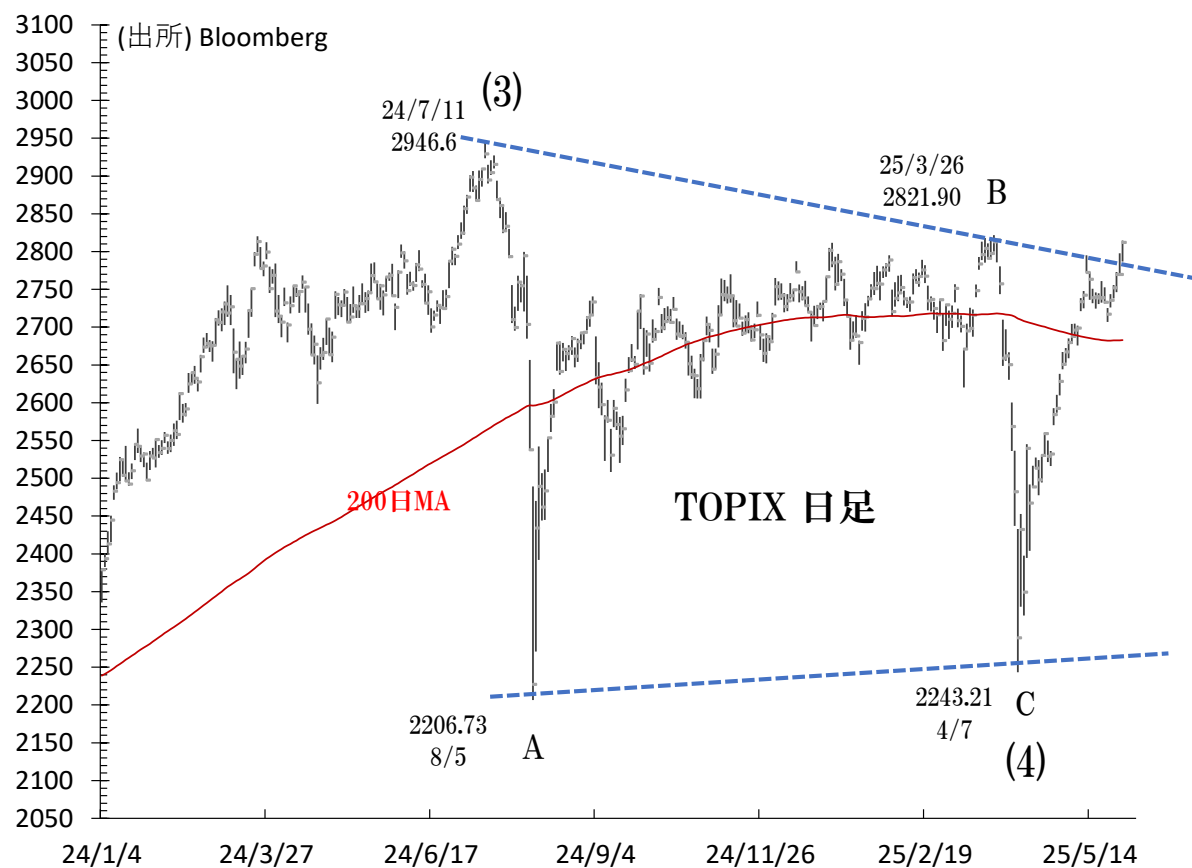
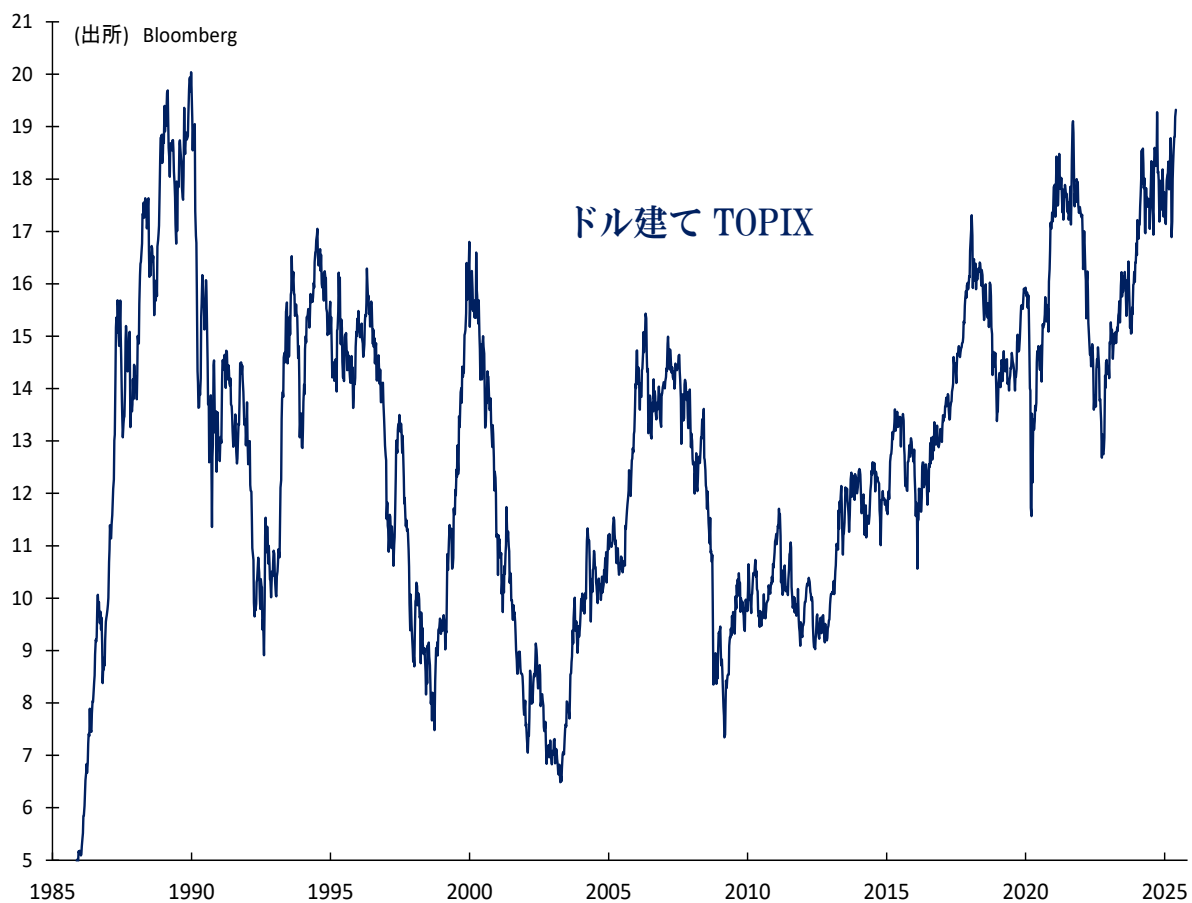
日経平均は、重要サポートとしての 200 週 MA を上回って推移しています。同 MA を今後も維持する限り、プライマリー上昇③波は依然継続中とみられます。

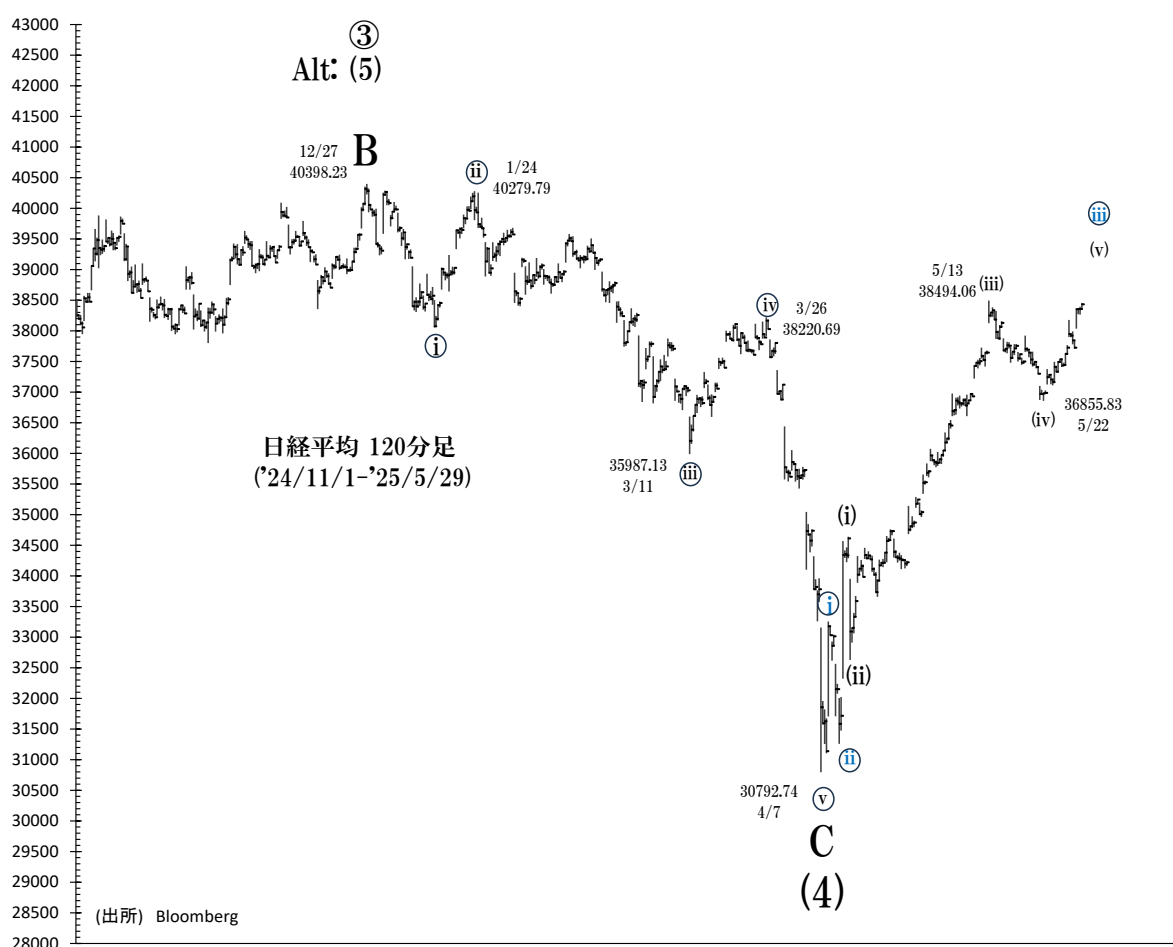
日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇を展開中とみられます。そして第(5)波は、20 年 3 月コロナショック底(16358.19 円)からのラリー中「最後の上昇」に相当します。

順当にいけば、第(5)波は 24 年 7 月高値(42,426.77 円)を上抜き史上最高値を更新するでしょう。

引き続き①旺盛な自社株買い、②米ドル離れ・円高傾向を受けての海外マネー流入(5 月第 4 週まで、海外投資家は現物株を 8 週連続で買い越しました)、さらに 6 月末にかけて 10 兆円規模で支払われる見込みの③配当の再投資、これら需給要因が第(5)波を支える展開が期待されます。

ちなみに注目ドル建て TOPIX は今週 19 ドル台前半に上昇し 35 年半ぶり高値を付けました。89 年 12 月高値(20.18 ドル)も視野に入り、そんな日本株の強さは長らく傍観していた海外投資家の日本株見直し機運を高めるきっかけとなりそうです。





【日足・時間足 エリオット波動分析】

[TOPIX]

5月29日に一時2814まで上昇、年初来高値の2821.90(3/26)を試す局面を迎えています。24年7月高値からのレジスタンスラインを明確に上回り、今後さらに上昇モメンタムが強まる可能性があります。年初来高値を更新すると、いよいよ24年7月の過去最高値(2946.60)試しが視野に入ります。

[日経平均]

5月29日は一時38,454円と直前高値38,494円(5/13)に近づきました。

36,855円(5/22安値)からはミヌエット級第(v)波が進行しているとみられ、そうであれば、目先のにも38,494円を上回り以下の節目を試す可能性があります。

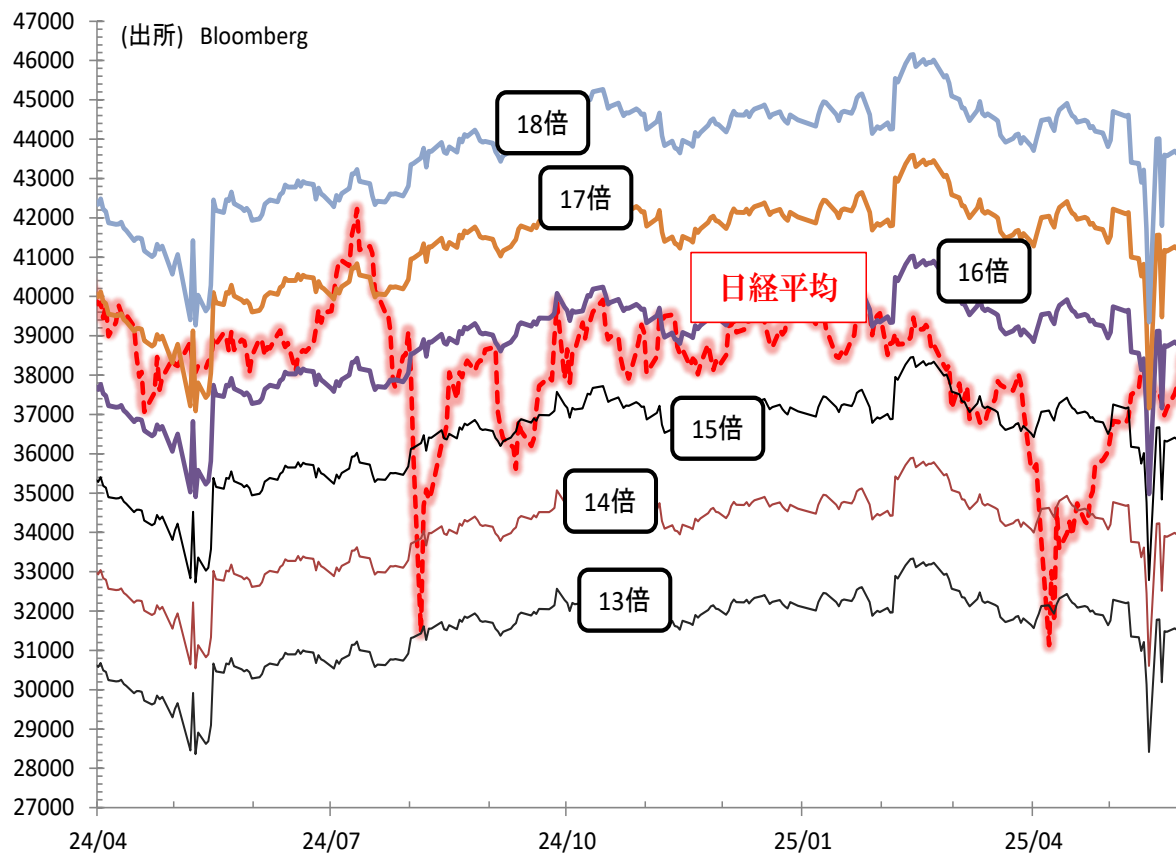
[38,945 円]…ミヌエット級第(v)波の長さが同第(i)波の0.618倍になる水準

[40,237 円]…第(v)波と第(i)波の長さが等しくなる水準

[予想 PER 別の日経平均水準]

5月29日の日経平均予想 PER は 15.83 倍・予想 EPS は 2427 円。

過去最高の EPS は 2564 円(2/13)です。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

36,611 ドル(4/7 安値)からは第(2)波によるリバウンドに当たります。

5 月 19 日高値(42,842 ドル)は、第(1)波中レツサー・ディグリー第 4 波高値[42,821 ドル](3/26)に合致し、第(2)波が終わるのに理想的な水準を満たしています。

5 月下旬以降では 200 日 MA を上値とするもみ合い展開が続いていますが、41,354 ドル(5/23 安値)を下抜くと弱気トリガー。第(3)波下げトレンド入りの可能性が一段と強化されます。

引き続き上値試しが続くなら、24 年高値からの下げに対する 76.4%–78.6%戻り[43,076 ドル–43,262 ドル]がメドになります。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

（プリファード（優先）・カウント）

4910(4/8 安値)からの第(2)波は 5968(5/19 高値)を以て終了し、既に第(3)波下落が始まった可能性があります。

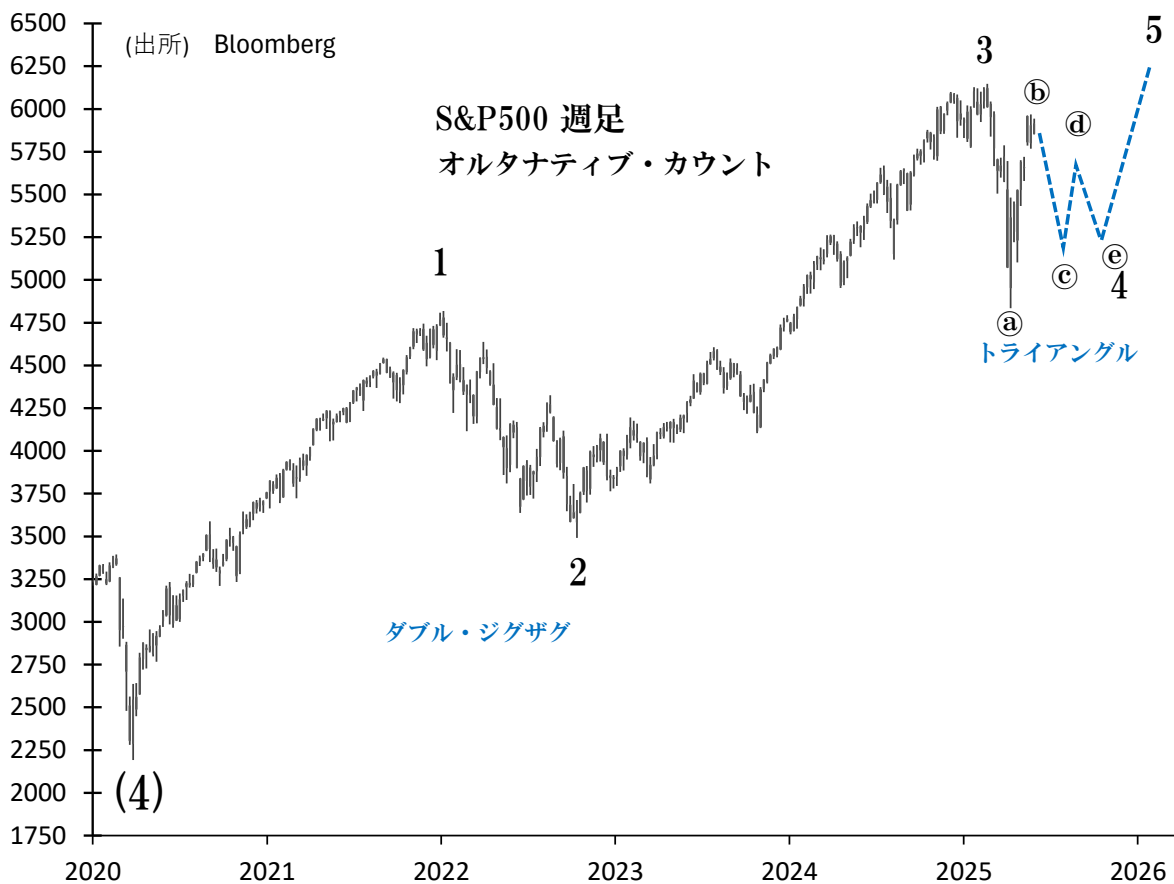
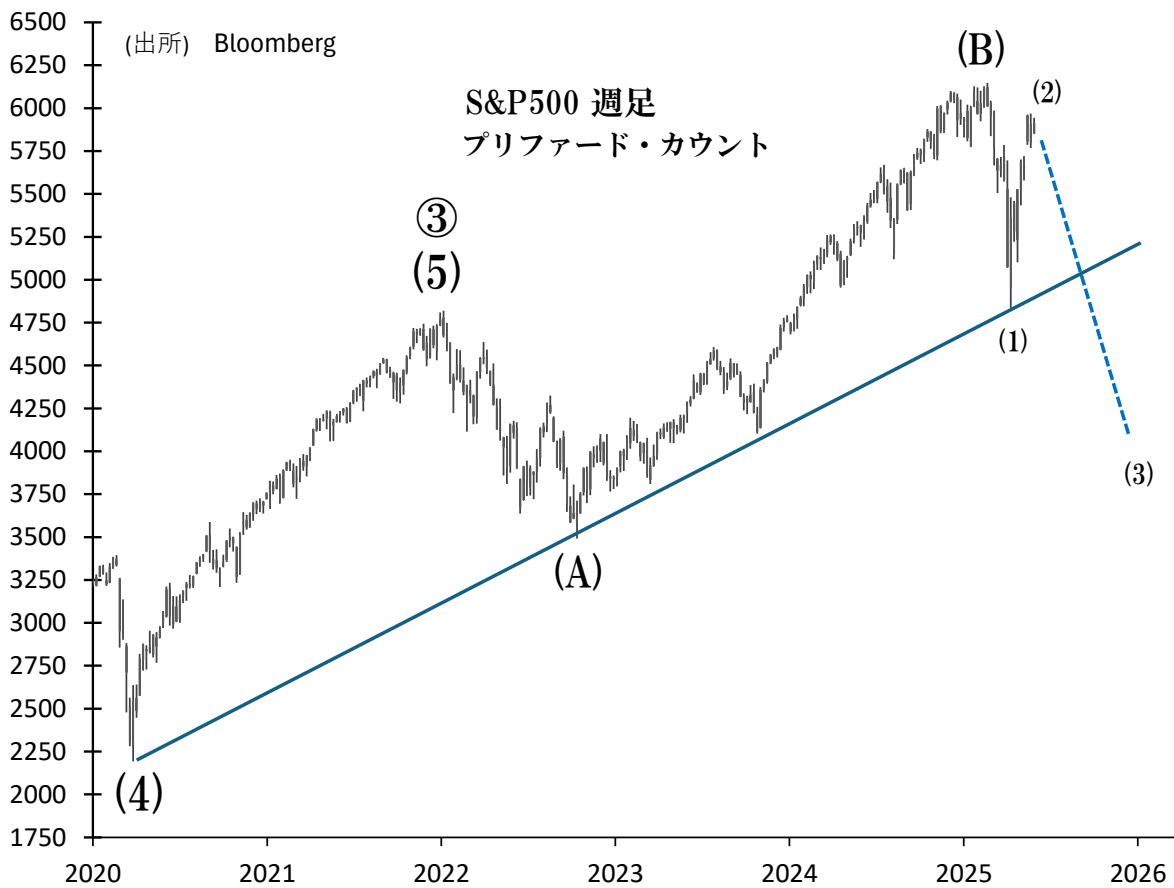
今のところ 200 日 MA によるサポートを受けていますが、5767(5/23 安値)を終値で下抜くと、トレンド変調を示唆します。来る第(3)波の下落スケールは、第(1)波と同程度(1293 ポイント)か、(順当なら)より大きなダイナミックなものになるでしょう。

（オルタナティブ・カウント）

2020 年底からの五波構成中、今年 1 月からは第 4 波の調整局面です。

第 2 波(21 年末~22 年 10 月)が「ダブル・ジグザグ」だったことから、第 4 波は「トライアングル」「フラット」など複雑な保ち合い構造になるでしょう(オルタネーション)。

試みに「トライアングル」を想定すると、4 月からの上昇はパターン中①波です。まもなく②波の下げに入りますが、それは①波上昇分の 60%~70%を打ち消すでしょう。



マグニフィセント7

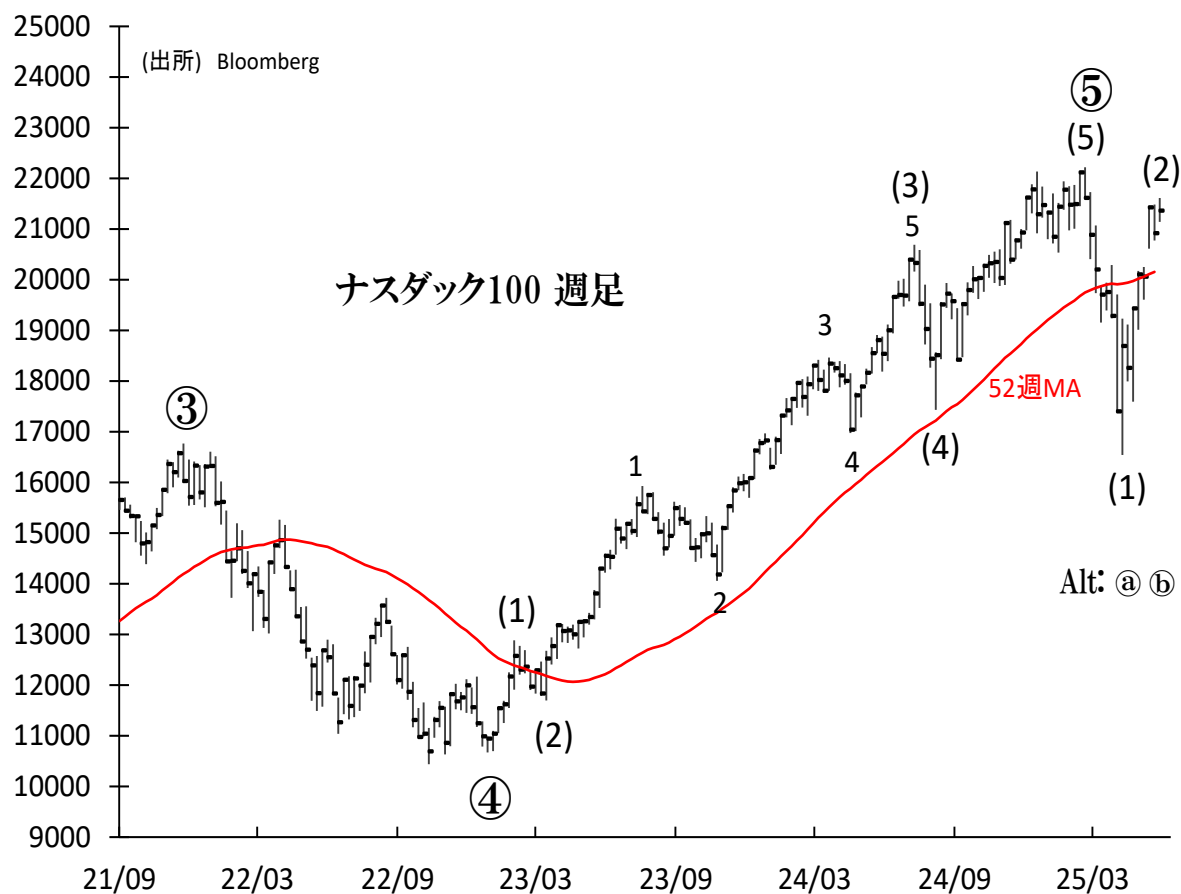
5月30日の日経新聞電子版によれば、トランプ大統領が相互関税を公表した4月2日から5月29日までにマグニフィセント7(M7)は10%上昇しましたが、同じ期間でM7を除く「S&P493」はほぼ横ばい(1%上昇)でした。

このように物色が極端に偏るのはまったく健全ではありませんが、ことの良し悪しはともかく、M7はS&P500の時価総額の30%超を占めており、今後も巨大テック株の動向が米株相場の浮沈のカギであることはたしかでしょう。

ブルームバーグ・マグニフィセントセブン・インデックスをみると、24年12月の最高値から今年4月安値まで30%超も下げましたが、それは明確な五波構成です。すると4月からの「リバウンド」を完了後は新たな五波構成による下げに移り、それは4月安値を下回ることが予想されます。



ナスダック



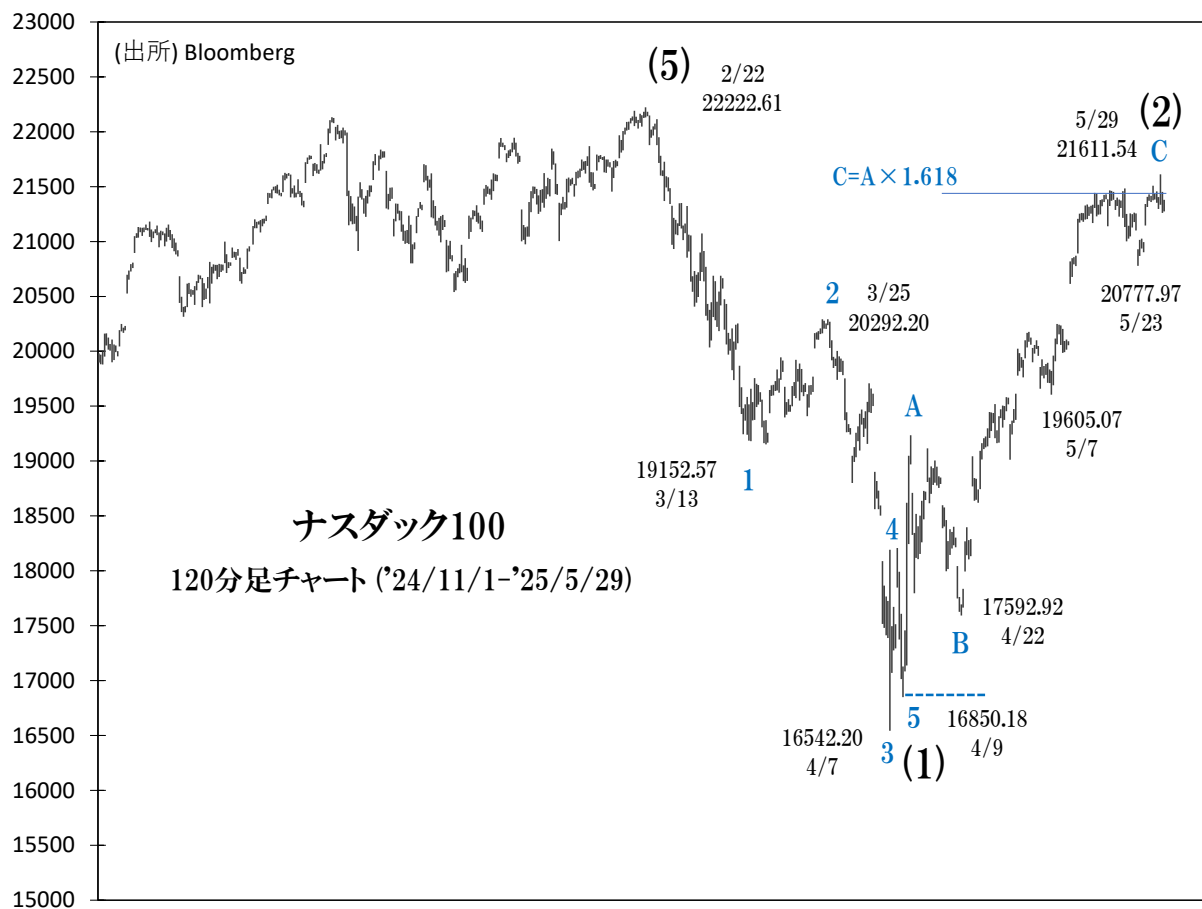
【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

ナスダック 100 は 25 年 1 月高値 (22,222) 以来、サイクル級の調整局面にあるとみられます。

ナスダック 100・総合指数はほぼ「全値戻り」となっています。これら二つの指数は近いうちに、1 月高値と現行の第(2)波を以て「ダブル・トップ」を形成し、そこから第(3)波の下落に入るでしょう。

オルタナティブ・カウントは、4 月安値からの上昇は第(5)波というもので—前の波に比べ第(4)波が大きすぎる点に違和感がありますが—ナスダックは高値を更新することが予想されます。それを以て強気相場は終了し、調整局面を迎えるでしょう。





【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

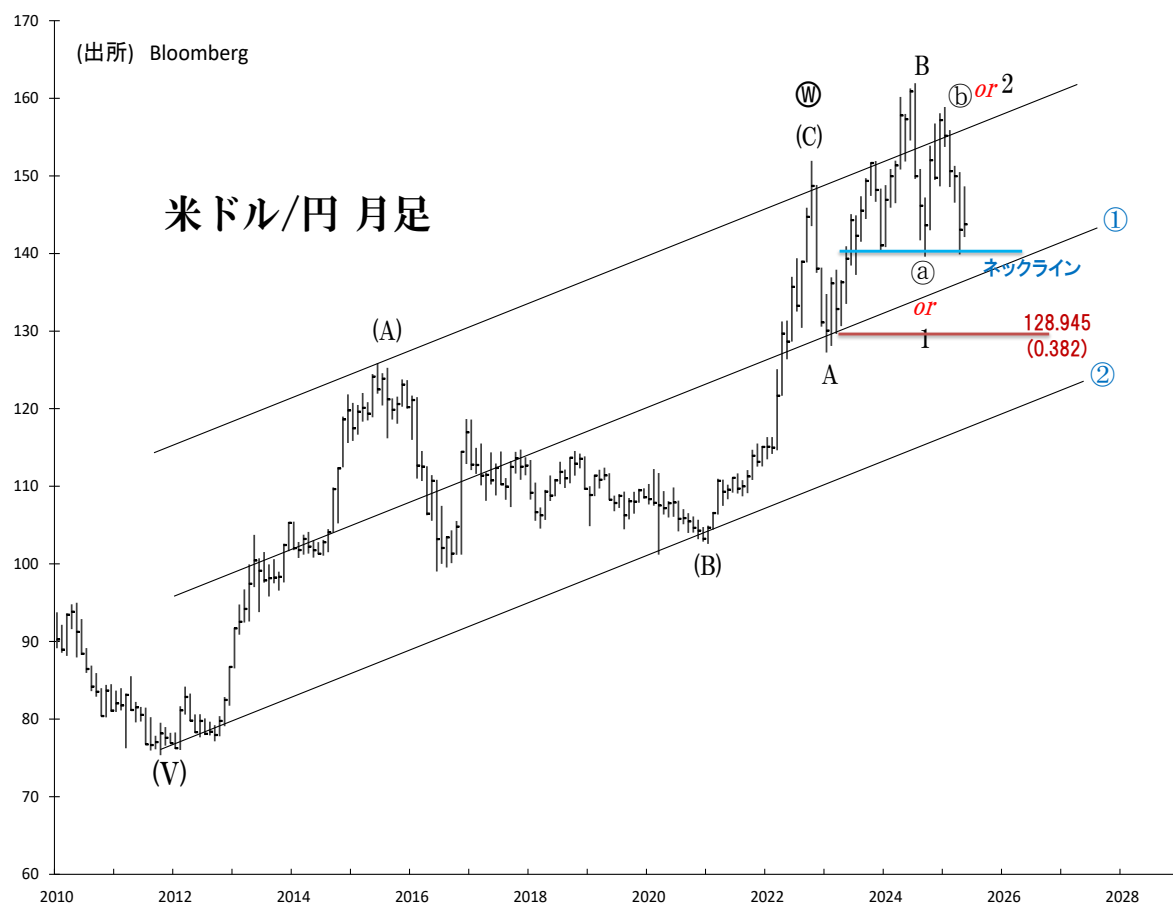
16,850(4/9 安値)からは第(2)波リバウンドが進行中とみられ—第(1)波の下落トレンドにおいて第 5 波は短縮されました—そのパターンはジグザグ(A-B-C)です。17,592(4/22 安値)からの上昇は C 波に当たります。

5 月 29 日はエヌビディアの好決算を好感した買いが集まり、ナスダック 100 はギャップを空けて上昇、始値 21,611 は前日比 293 ポイントの大幅高でした。しかしその後は売りに圧され上げ幅を縮小。終値 21,363 は前日比プラス 45 ポイントながら、この日のローソク足は寄り付き高値の長い陰線となり、上昇基調の転換を暗示するものでした。

第(2)波は終わり、近々第(3)波による下落がスタートする可能性があります。

[20,777](5/23 安値)を終値で下回ると、第(3)波入りの最初のトリガーが発動します。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

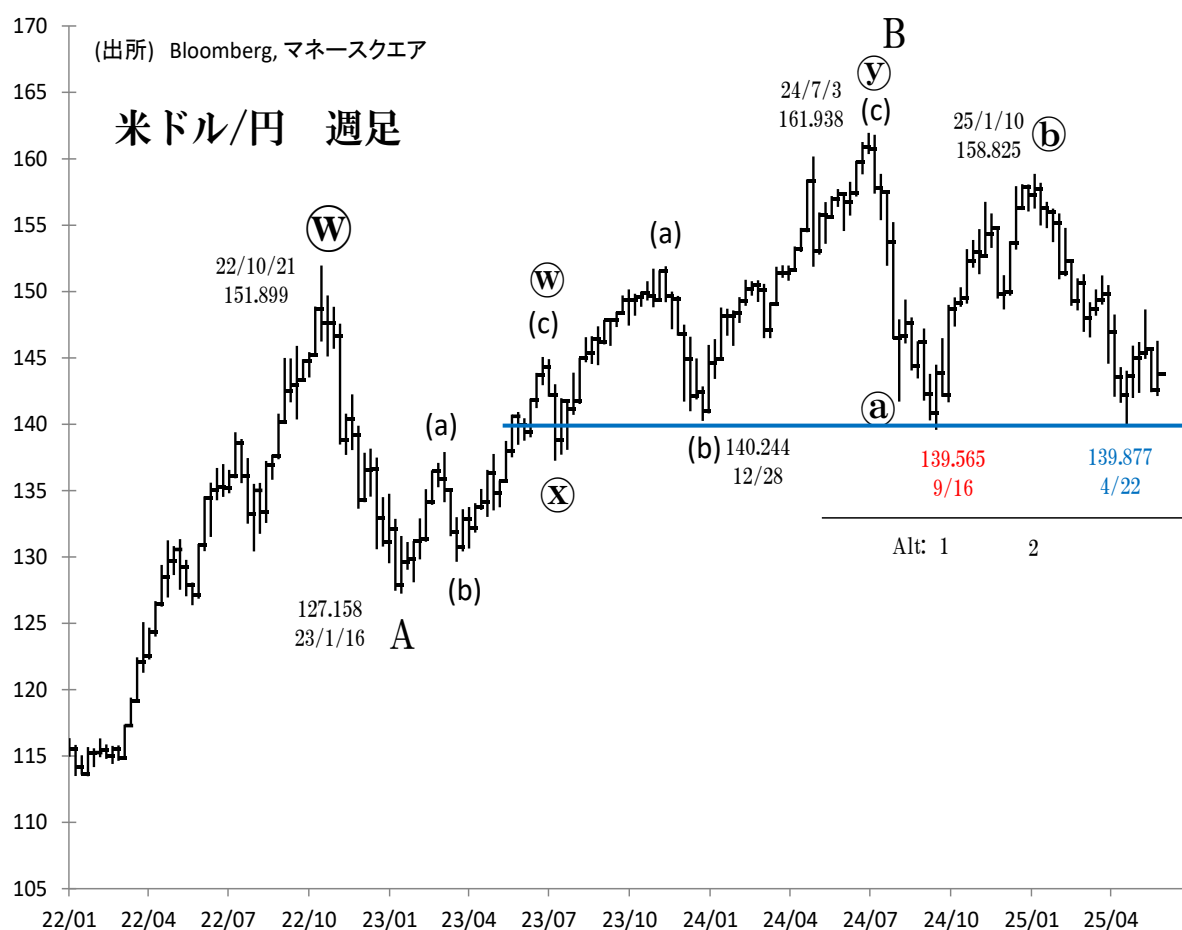
151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、まずは 2011 年からの上昇チャネルのセンターライン①136.935 円(6 月)がサポートレベルとみられます。

もっとも 139 円処を下抜くとヘッド・アンド・ショルダーズ型の天井パターンから明確に下放れ始め—上述したセンターラインで底入れせずに—フィボナッチ・サポートの[128.945 円]を試すと思われます。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 117.310 円(6 月)です。



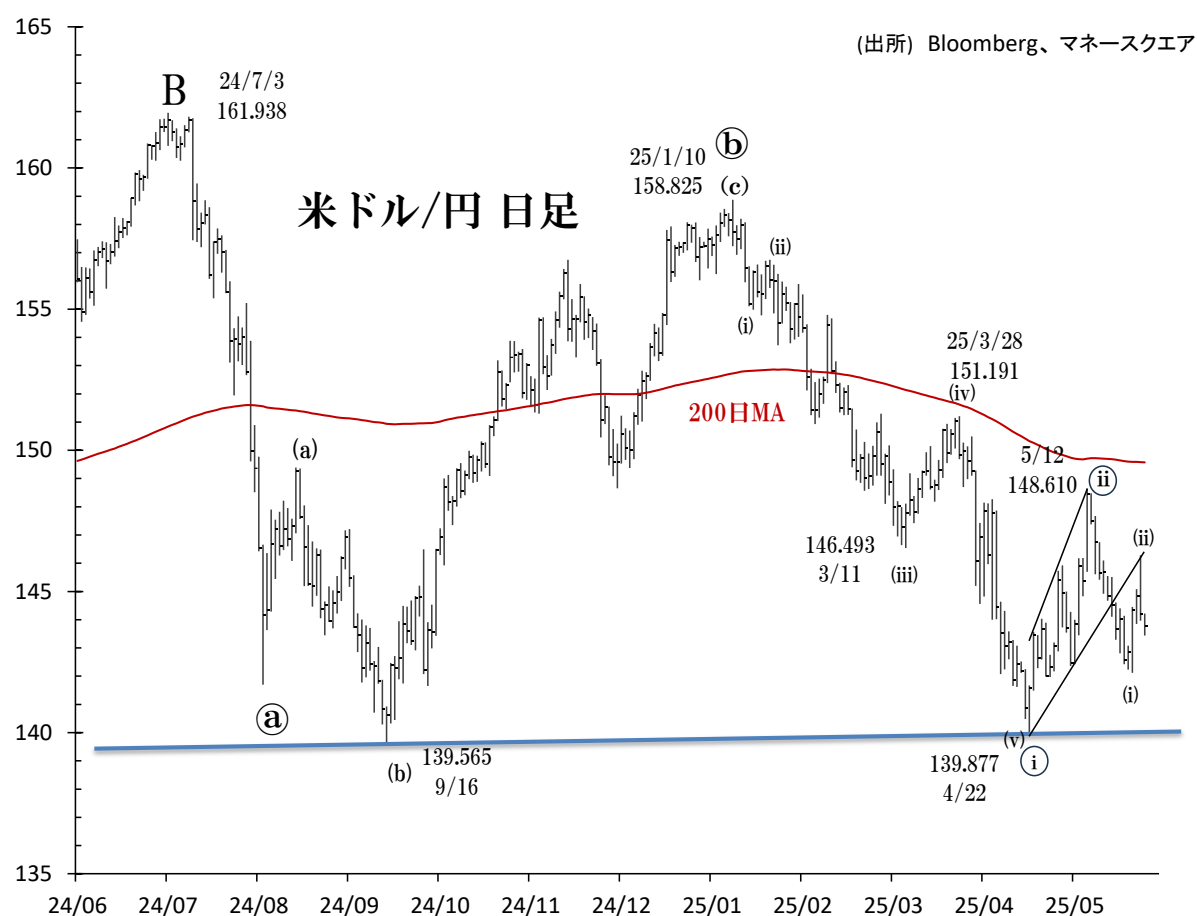
【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(24/7/3)からはC波によるドル安・円高トレンドです。C波は(先ずは)三波構成((a)-(b)-(c))が想定され、158.825 円(1/10)から©波によるドル安・円高が進行中とみられます。

今年 1 月からのドル安・円高を第 3 波とカウントすることもできます。このサブシナリオによれば、先々1ドル=120 円試しも視野に入ります(ヘッド・アンド・ショルダーズに基づく垂直目標値は 120 円処です)。

139.877 円(4/22)からのリバウンドは終わったとみられますが、そうであれば、近々ヘッド・アンド・ショルダーズのネックラインをブレイクするでしょう。

ネックラインをブレイク後、最初のターゲットは 136.935 円近辺(既述)、その次は 128.945 円(同)です。



【日足 エリオット波動分析】

148.610 円(5/12)から、マル iii 波によるドル安円高が進行中とみられます。このマル iii 波はミヌエット級の五波に分波しており、足元はマル iii 波中第(ii)波のリバウンドが終わったか、終わりつつあるところと思われます。

この波動カウントによれば、もうまもなくマル iii 波中第(iii)波によるドル安・円高が到来し、それは 139.877 円(4/22)を明確に下抜くでしょう。

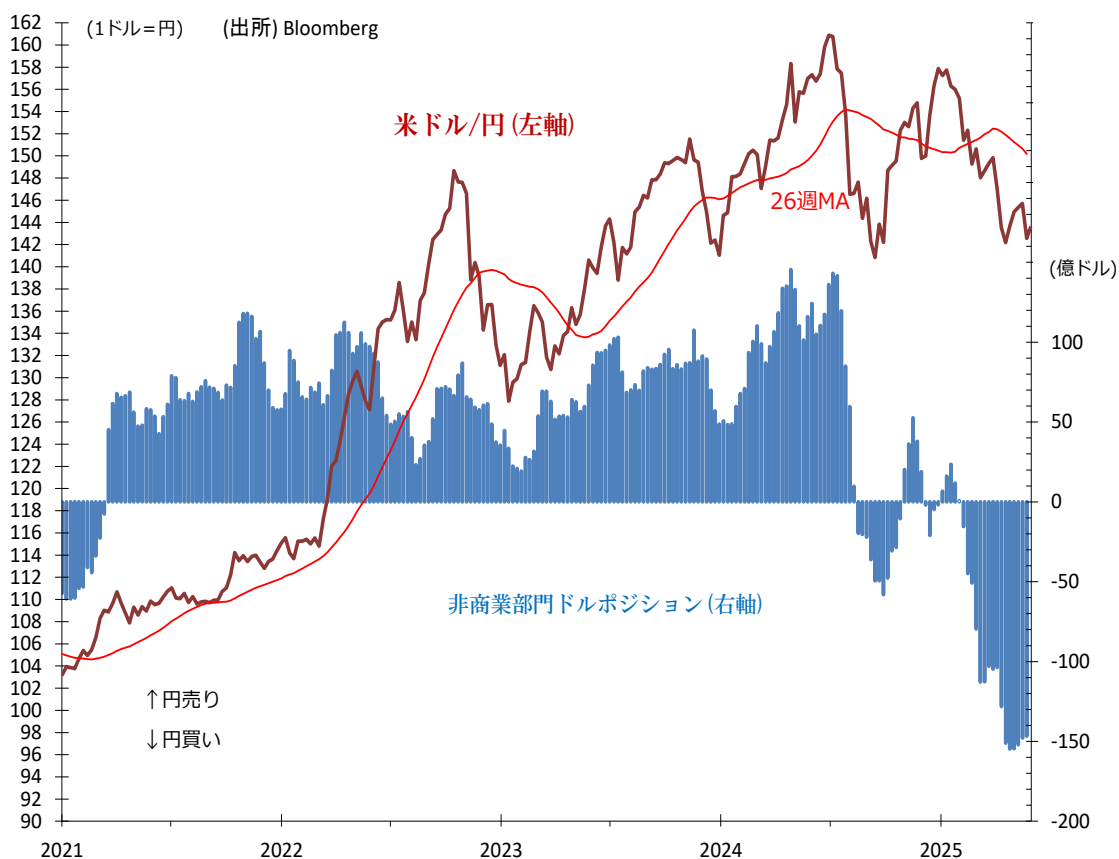
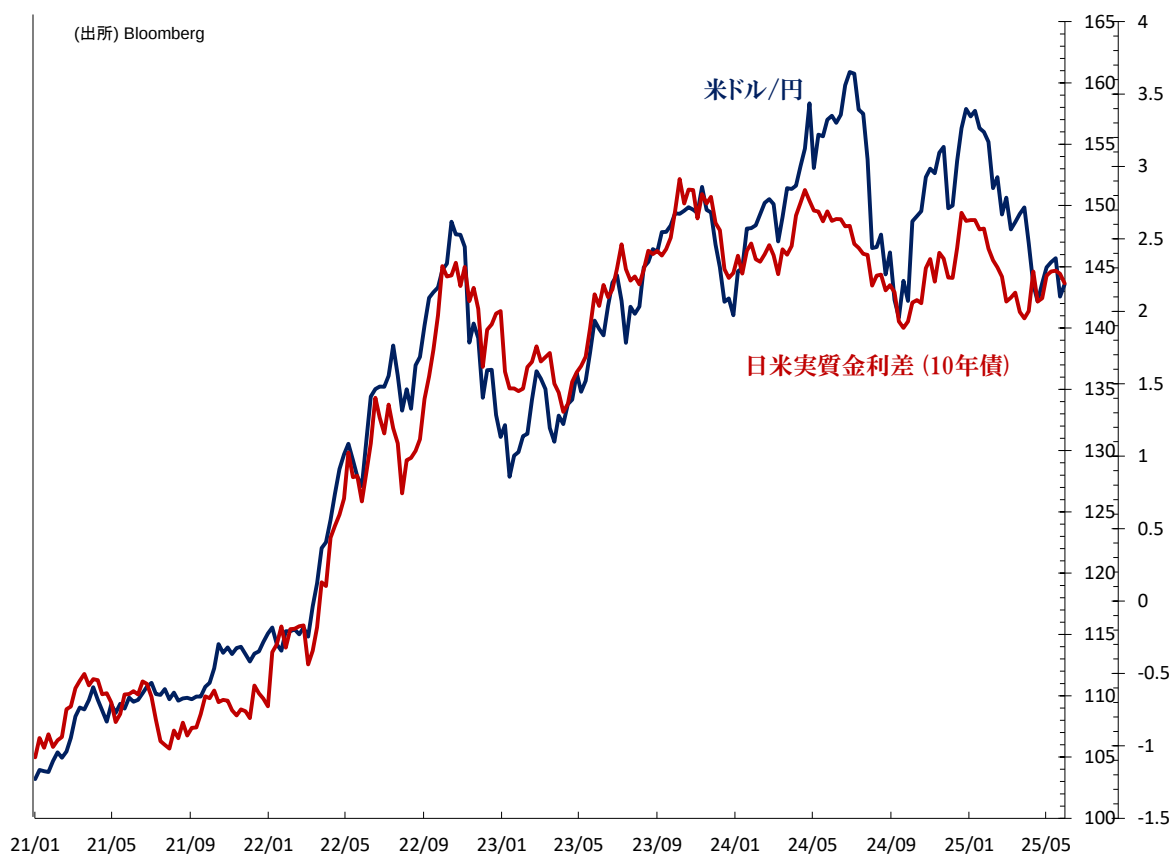
第(ii)波が続いている場合は、146.247 円をいったん上回り「ジグザグ」を形成するでしょう。しかしドル高基調は長続きしないでしょう。

金利差からのドル/円推計値

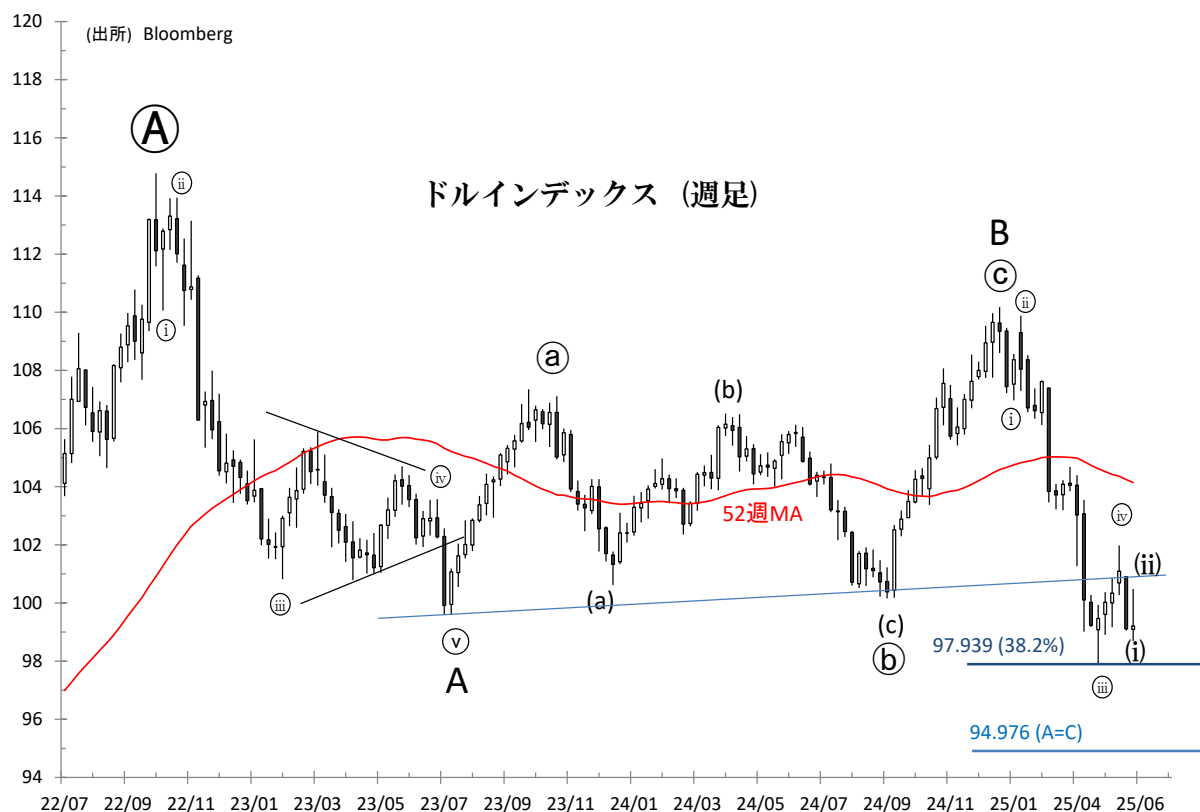
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[145.941 円]です。

投機筋の円買い持ち高が3週続けて縮小(2025年5月20日時点)

IMM 通貨先物市場で投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 146.0 億ドルから 144.7 億ドルへ3週続けて縮小しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

101.977(5/12 高値)からマル v 波による下落が進行中とみられます。

マル v 波はミヌエット級の五つ波[(i)~(v)]に分波し、98.694(5/26)からのドル高は、第(ii)波によるリバウンドとカウントされます。

この見方が正しければ、第(ii)波は近々終わり、第(iii)波によるドル安が始まるでしょう。第(iii)波は 4 月安値 [97.921]を下回り、[94.976](A 波と C 波が等しく下がる水準)を目指す流れになるでしょう。

なお 4 月からのマル iv 波がまだ続いている、という解釈もできそうです。マル iv 波はトライアングルなど保ち合いパターンを形成、マル ii 波「ジグザグ」と異なるパターンになります(オルタネーション)。これによればドル指数は今後数週間から 1 カ月程度、無風状態が想定されます。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
